



2026年3月26日 カトリック南山教会と桜

ご復活おめでとうございます 主任司祭 ビジュンキシャケール

イエス様は私たちのために十字架で死に、復活し、弟子たちに預けられました。今日、復活祭を迎えた私たちですが、40日間の間、祈りと節制、施し、罪の赦しを通してこの日を迎えることになりましたが、イエス様の十字架の道は復活を成し遂げるための神様のご計画でした。神様に選ばれたにも関わらず、多くの人を助け、絶望から希望へと導いたイエス様がとても辛い十字架の道を歩まれたのも神様のご計画でした。フィリピの信徒への手紙2章6・11を読むたびに胸一杯になることがあります。次のように書かれている箇所です。「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。」キリストの復活を通して私たちもその復活に与えることが約束されています。キリストのように、自分を捨て、自分を犠牲にしながらか神様の使者になり、人生において大切な心の喜びを味わおうではありませんか。

先月の月報にも書きましたが、準備を整えたら、司祭団による聖書勉強会、カテキズム、洗礼希望者入門講座などを開始します。私たちにとって聖書は生きる糧でもあり、聖書朗読リレーを開始し、教会共同体の一員として取り組みましょう。具体的には創世記から毎週一章ずつ各自で自宅、好きな場所で見、一人でも多くの方が毎週聖書に触れ聖書に親しむことが目的です。また、聖書朗読リレー担当者を各ミサで交代して、共同体として取り組みましょう。教会共同体のみなさんが参加し、教会で聖書勉強に参加できない方にも聖書に触れる機会となるでしょう。

その他には、信徒の地区制度を導入し、年齢、性別を問わず集い、シノドスのな分かち合い、教会のことを話し合う場となることを期待します。一人一人の信仰のあゆみをより深く、より豊かに生きることを目指しましょう。

平日のミサ時刻：

月曜日・水曜日・木曜日・土曜日 午前7時
 第4土曜日 午前10時30分 子供のミサ(ナザレ館)
 火曜日 午後7時
 金曜日 午前10時 初金曜日 午後7時
 ゆるしの秘跡は各主日ミサ前に受けることができます。

主日のミサ時刻：

土曜日 午後5時 (ミサ前4時半聖体賛美式)
 日曜日 午前8時・10時
 Sunday Mass in English 9:30 am
 (in the Marian Hall)
 ベトナム語のミサ 第4日曜日 午後2時

巡礼記(2・3月) 大川 隆
 ○東京大司教区 田園調布教会 (2月21日)
 ○東京大司教区 赤羽教会 (3月1日)

田園調布の住宅街の小高い丘に建つ教会は、フランシスコ会修道院が隣接し、大聖堂と小聖堂の聖クララ聖堂を擁しています。目についたところで四つのアシジの聖フランシスコ像があり、私たちを見守っています。大聖堂ではパイオルガンの練習中で、厳かな曲が流れる中で祈りました。サン・ダミアノの十字架が架かるこじんまりとした聖クララ聖堂では、静かに祈りを捧げました。受付の方によると、私たちの前には大阪からの巡礼者があつたそうです。



の聖母に捧げられたゴシック様式の教会は、東京都の歴史的建造物に選定されています。美しいステンドグラスに陽が差し込み、アンジェラスの鐘が鳴り響く中で、主日のミサに与りました。ミサ後、神父様に巡礼者の祝福をいただきました。

ワンポイントひらめき、秋元恭子
 「神様が与えたい虫眼鏡」夫との会話の中で、何か問題が起こると、神様を信じているのに、その問題に囚われて不安になってしまふ。どうしたらいいのか？との話に、夫は心の中に次のことが浮かんだようです。私たちが使っている虫眼鏡のような形のものがあふり、それで見ると、問題や悩み、困難などが大きく見え、神様やその恵みは小さく見える。神様は「これは敵の与えた虫眼鏡。敵の眼鏡で問題を大きく見せられ、わたくしやわたしの力を過少に見せられている。だからわたし以外のものを頼みとしがちだと分かる。こうしてあなたたちは騙され、不安や恐れをおられる。そして神様の御手は新しい虫眼鏡をくださつた。それは神様をはっきりと見させ、この恵みもそのまま大きく見させる。そして問題や悩み困難はとて小さく見える。だから、わたしの目で物事を見る事ができ

るように、これをあげよう。」と夫は心の中でこれらのことを言われたように感じた、とのことです。主よ私たちにその霊的虫眼鏡を与えてください。「どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ感謝を込めて祈りと願いを捧げ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和があるあなたがたの心と考えをキリスト・イエスによって守るでしょう。」(フィリピ4章6・7)主の勝利の虫眼鏡に私たちの信頼と信仰を置きましょう。そして安心と平和のうちに人生を歩めますように。

典礼一口メモ 香部屋の窓から
 第91回 「聖堂」のお話1
 香部屋係 新内飛鳥

今回から数回に分けて聖堂についてお伝えします。教会は私たちが礼拝をささげる聖堂について、ローマ・ミサ典礼の総則において5章で「感謝の祭儀をささげるための教会堂の配置と装飾」として様々な取り決めに従っています。基礎となる一般原則をごく一部ですが紹介しましょう。

一般原則
 258 感謝の祭儀をささげるために、神の民は教会堂に集まる。教会堂がないか十分な広さがない場合、この偉大な神秘にふさわしい

場所が集まる。それゆえ、教会堂
あるいはそれに代わる場所は、祭
儀を行うため、また、信者の行動
的参加を得るために適したもので
なければならぬ。さらに、聖堂
および礼拝に関連する事物は、真
にふさわしく、美しく、天上のこ
とがらのしるしであり、シンボル
とならなければならない。

……と、以降に、建物が祝別され
ていることだとか、内陣の配置の
ことだとか、使われる道具やその
材料のことなど、きめ細やかに守
るべき事柄や許される裁量につい
て記されています。私たちの典礼
はこの総則とルブリカに従って奉
げられます。私たちの習慣や伝統
は何を隠そう自然にそうなった訳
ではなく神聖を保ち高めるために
多くの先人達が築き上げてきた定
めに従っているのです。もちろん
人間一人一人の細かな行動まで決
められるわけでもなく私たちのモ
ラルなどに委ねられている部分も
あるわけですが、それゆえに我々
は慎重になるべき側面がありま
す。

ちなみにルブリカとは、ミサ典
礼書（ミサで使っている赤い大き
な本のこと）でミッサールとも呼ば
れます。）の書き込みのことで、
主に会衆を含めた奉仕者の仕草や
動作についての指示や注釈です。

※芝居の台本のト書きのようなもの
です。どれほどに荘厳で素晴ら
しい聖堂であっても、そこに集ま
る私たちの心がげや行いによつて
は、それを台無しにしてしまうこ
とがあります。私たちはそのこと
を自覚し、度々、繰り返し心に刻
みなおすことを奨めます。
さて、別の話をお伝えします。
結構大事ですから真面目に読んで
ください。

「枝の話」

今年3月29日（日）の「受難
の主日（枝の主日）」を境に私た
ちは聖週間を迎えました。この日
はイエス様のエルサレム入場を記
念します。待ちわびた救い主の到
来に枝を手にホザンナとイエス様
を迎えます。そして今日手にした
枝を約一年の間、各家庭で保管し
ます。家庭祭壇に飾るもよし、目
につく壁に飾るもよし、イエス様
を思い起こすきっかけにするとよ
いでしょう。そして次の年の四旬
節を迎える少し前に教会に持ち寄
り、燃やして灰にします。そこか
らとった灰を、額に受けて四旬節
を迎えます。これが「灰の水曜
日」です。私たちは教会の典礼を
通じてイエス様の生涯を思い起こ
し各々の信仰を刻み直すのです。
そうなのです。「受難の主日」は
「イエス様を、枝を手に迎える」

ことがこの日の典礼の重要な要素
なのです。「祝福された枝をも
らって帰る」ことが目的ではあり
ません。枝を持つて帰ること自体
は、どちらかというと二の次で
す。「イエス様を迎えた枝」を
持つて帰るのです。つまり「イエ
ス様を迎える」ことが、この日の
大切なポイントです。南山教会は
親切ですから、ミサに遅れた人の
ために何本かの枝を余分に祝福し
ます。ですが「枝を手にイエス様
を迎える式」なのだから、祝福済
みの枝をもらって「良かった」と
いうことではないのです。

この日に限らずですが、時間を
守つて参加することを強めにお勧
めします。四旬節の間に十字架の
道行きを奉げましたが、始まる時
間に遅れて途中から参加する人
は、まだ好いですが、外で道行が
終わるまで様子を見ている人もい
て残念なことでした。
思い当たる方はどうぞ、時間を
守つて参加するようにしてください。
■「復活の本質」について 川原稔

ば、復活は主イエス・キリストが
十字架の死の後、三日目に栄光の
うちによりがえられた出来事に根
ざしている。この出来事は四福音
書に証しされ、教会の信仰の中心
である。キリストの復活を「信仰
の頂点」であり、神が御子を通し
て罪と死に打ち勝たれた決定的な
しるしであると教えているのであ
る。
■（教会の教えにおける復活）復活
と救いの計画
復活は、神の救いの計画におい
て不可欠な出来事であり、初代教
会以来、すべての公会議と教理に
おいて確かに宣言されてきた真理
である。たとえば、ニケア・コン
スタンティノープル信条において
「三日目に復活した」と告白する
ことは、教会の普遍的な信仰の表
明である。また、復活は秘跡、と
くに洗礼と深く結びついている。
教会は洗礼を通して、人はキリス
トとともに死に、ともによみがえ
り、新しいいのちに生きる者とな
ると教えている。さらに、主日の
ミサの遵守という教会の六つの戒
めの第一は、主の復活を記念する
日を聖とすることであり、信者が
復活の恵みに参与する具体的な道
であるとされているのである。
■（人間の生き方への意味）復活が
示す新しい生

復活の意味は、過去の出来事としての歴史的事実にとどまらず、現代を生きる信者の生活そのものに新しい方向を与えるものである。十戒や教会法は、人が神と隣人への愛に基づいて生きる道を示すが、その根底には復活の希望がある。もし復活がなければ、人間の努力や善行は最終的な完成を持たない。しかし復活があるゆえに、悔い改め、赦し、愛の実践は永遠のいのちへと結ばれる意味を持つのである。聖体の秘跡において信者が復活したキリストのいのちにあずかるとき、人は日々の苦しみや死の現実を超えて、神のいのちのうちに生きる者へと変えられていくのである。

★復活の本来の意味と希望
したがって、復活の本来の意味とは、死からの単なる回復ではなく、罪と死に対する神の最終的勝利であり、人類すべてに与えられた永遠のいのちへの招きである。教会法、教義、公会議、秘跡、戒めのすべては、この復活の恵みに生きるよう信者を導くために存在しているのである。復活の信仰は、キリスト者にとって未来の希望であると同時に、今ここで新しいのちを生きる力の源でもある。ゆえに信者は、復活の主に信頼し、愛と希望をもって日々を歩

むことこそが、復活の本来の意味に込める生き方であると言えるのである。

3月15日 四旬節黙想会

谷崎神父様へミサ説教

最初に紹介していただきました谷崎神父と申します。手話さんがいらっしいますね。ゆっくり話しますね。

緊張しています。私は普段シスター方のためにミサをお捧げしています。いくつかの修道院に伺っています。今朝、そのことを改めて思い出していました。そのよな修道院でミサが終わって帰ろうとすると、シスターが玄関で2つのことを話します。1つは今度私がいっ来るのかという質問です。もう一つは空を見上げて、天気の話しをなさいます。晴れていたら、シスター方は眩しそうに見上げて「良い天気ですね。」と笑顔で気持ちよさそうにおっしゃいます。聖体のイエス様をいただいた後です。ですから良かったという気持ちも重なっているでしょう。光は私たちの眼差しを広げてくれます。イエス様がくださる力は私たちの心を広げてくださいます。

今日の福音箇所では生まれつき目が不自由だった人が、イエス様

によって光をいただきます。当時、イスラエルでは目の不自由な人は神殿に行けませんでした。生け贄を捧げて、神様とみんなと和解することはできませんでした。仕事もなく、みんなからの施しによつて生きていました。神様やみんなの愛情を感じられないことが多かったでしょう。ですからこの人はイエス様から光をいただきたい、心を大きく開くことができました。驚いて、喜び、愛で感動して、感謝を感じたでしょう。イエス様がくださる光や心の眼差しは神様の暖かな心に満ちています。ですから、第二朗読が述べているように、優しい良い心、悪いことをしない心、誠実さを大事にするようになります。見かけだけにと

らわれないようになります。癒やされた人は、難しさの中でも、イエスの様の光と心の眼差しを大切にしていました。最後にはイエス様を救い主として信じるようになります。ところが、このイエス様の光と心の眼差しを拒む人たちもいました。どうして拒んだのでしょうか。病気や体の不自由さは、罪に対する罰だという意見もあつたようです。自分たちの方が優れていて正しいと考えていたでしょう。そして、イライラしている様子が伝わってきます。自分の方が正しいことを示すために良心を問い詰めたり癒やされた人と同じ質問を繰り返しました。心が狭くなっていたので、相手を受け止めることもできなくなっています。さて、私たちは神様からたくさん受け止めていただき、支えられ、許され、生かされています。そのような中、イエス様の温かな光や優しい心の眼差しを、たくさん示すことができました。そして難しいことがあつても、優しさを大切にしたり、悪いことを避けたう。誠実に行動してきたでしょう。とはいえ、時には自分の性格、体験、感情にとらわれることもあつたかもしれません。先入観や偏見、プライド、イラだち、そういうものをいいただいて、人をありのまま受け止められない時もある。あつたかもしれません。神様イエス様はこういう私たちのことをよくご存じです。深く受け止めてくださっています。その上で、温かな光、温かな心の眼差しを届け続けておられます。ですから、聖霊の助けによつて深呼吸し、ありのままの自分を素直に神様イエス様にお委ねしましょう。そして、感謝と謙虚さのうちに私たちに温かな光、癒し、優しい心の眼差しが広がるように願います。通訳の方ありがとうございました。

四旬節黙想会 谷崎新一郎神父様講話

主任司祭より講話始まりの挨拶があり、谷崎神父様はプリントの歌『目指したいところを主に』を歌いましょうとギター伴奏してくださった。この歌は聖フランシスコがまだ騎士になりたいと夢を抱いていた頃に、神様から夢の中で語りかけられた出来事を思い巡らして、書かれた歌になります。アッシジの聖フランシスコのお話をさせていただきますが、普通は一つの福音箇所を丁寧に味わうということしかしないので、せつかく今年には聖フランシスコ年ということなので、そのお話しを絡めてイエス様の心を思い巡らそうと思いました。アッシジの聖フランシスコは二二六年に亡くなりました。今年はずいぶん800周年にあたります。そのため、教皇レオ14世は聖フランシスコを特に思い起こして、模範とするように来年の1月10日までを聖フランシスコ年にするということになりました。ですから、フランシスコを通してイエス様の心をお招きできたらいいなあと思いつているところなんです。はじめにアッシジの聖フランシスコの遺言の言葉を引用させていただきます。

アッシジの聖フランシスコ「遺言」1-3節（配布資料1頁目記載）。なくなる少し前に言葉で話して仲間の兄弟にかき取つてもらった一番初めのもんです。（配布資料1頁目の内容）

この体験を自分の回心の始まりと捉えています、彼の遺言の冒頭を思い巡らしてみよう。今読ませていただいたところを少し味わってみましょう。罪という言葉が出てきました。わたしは罪の中にいた。なんの罪でしょうか。いろいろ調べてみました。わからない。ある学者さんがおっしゃるには、ここに書かせていただいたように聖フランシスコは23歳まで神様のことをあまり深く考えず、自分で自分の計画を実現しようと思しました。明るい、友達もいっぱいいて良い青年だったようです。が、神様のことをあまり深く考えなかった。どちらかというと、自分自身で考え、自分で夢を実現しようとして、自分の力でしようとした。ところが、回心が始まりました。「回心を行うこと」と「いつくしみを行うこと」、聖フランシスコにとつてこの2つは同じ意味を持つているということなんです。回心という日本語では悪いことをしてごめんない。2度としません神様、という印象が強い

かもしれない。でも、聖フランシスコのこの遺言の言葉を見るとわざわざ「回心を行う」、それから「いつくしみを行う」わざわざ二つの言葉を似せて書いているのです。ですから、回心というのは悪いことをしていたら「ごめんない」、しかし、もう少し深い意味があると思うのです、暖かな心を大事にする、ということなわけです。そして、彼らの中に導かれる、彼らと共にいつくみを行うという表現が書かれていました。ですから、人を上から優しくするというより、人の間にいて人の痛みを受け止め、一緒にあたたかな心を行なっていくということになります。

④の点は、「主は」「主ご自身」が、という表現が出てきます。実はこの聖フランシスコの遺言には何度もこういう表現が出てきますね。何度も。自分がスタンスではない、神様がそうさせてくださったという表現です。自分で神様が受け止め、神様が暖かな心に変えてくださる。聖フランシスコはハンセン病の人を見るのが怖かったそうです。吐き気、辛いこと、自分ではどうすることもできないこと、それを暖かな心に変えてく

⑤は、回心という言葉なので、この出来事の後、聖フランシスコが始めた修道会はものすごく発展します。十年くらいで三千人くらいになったと言われています。修道会の発展と共に、実は聖フランシスコの理想とは異なった人々もたくさん入ってくる、聖フランシスコはだんだん隅において行きます、その体験はいろいろのだったと思います。ちょうど、最初にハンセン病の人たちとの出会い、見ることが辛かった苦しかったと書いてありました。その苦しい体験は別の形で続いているのです。受け入れにくい人が聖フラ



ンシスコにもいたということでも十字架のイエス様はそれを受け止め癒し共に歩んで温かい心分かち合うように促しておられたということがあります。それが晩年、聖痕を受けるという形で示されていきます。教会の歴史の中で、初めてイエス様の受難と傷と同じ傷を受けた人、それは奇跡というだけではなく、今も十字架のイエス様は全部を受け止めてくださっている。その上でこれからへりくだって暖かな心を大事にしてほしいというメッセージだったと思います。ですから、私たちも聖霊助けによって、自分の弱さ、痛み、難しさをありのままに神さにお委ねして神様の暖かな心が広がるように願ったらいいのではないかと思うわけです。ハンセン病との出会い、回心の始まりの出来事を思い巡らし、歌を歌います。『あたたかなところで』よかったですら一緒に歌って下さい。

このような聖フランシスコと神様との関わりをイエス様のご自身の姿に思い浮かべようとした時、引用させていただいているマタイ福音書11章28から30節（配布資料頁目読み上げ）を言葉が思い起こされました。

教会で一番を大事にすべきこと、神様とみんなを大事にすることなのですが、それなかなかできなくてプレッシャーに感じる人もいるかも知れませんがね。生涯の中、そういう時あるでしょう、私にもみんなを大事したいですが、心の中は色々ですよ。イライラしている時もあります。毎日あります、安心して下さい。毎日イライラして時もあります。それも全部受け止めて、神様にお委ねして暖かく心が広がるように願うようにしています。毎日あります。わたしにいろんな方がどうして神父様はそんなに穏やかなのですかと質問なさいます。いやいや普通に毎日イライラしている時ありますよと話します。みなさん安心しましたか。続きを見ますと、しかし、イエス様は誰でも私のもて来なさいと招いておられます。実際、ご自分のことを「柔和と謙遜」とおおせになり、深くへりくだってわたしたちに寄り添うようになっていく。くびきという2頭の家畜の肩にまたがる形で載せて大きな鋤と鍬を引く道具をイメージしてみましよう。傲慢さ、信仰のあゆみの中であまりよくないことだとを言われていますし、できたらそういうのをなくしたいと思えますよね、でもね、しようがない、出てくるものなのです、ただ、少しでもそういう気持ち

ら離れるにはですね、支えていただいていう感覚が大事だと思ふのですね、自分でできるといふ気持ち強いとだんだん傲慢になつてしまふ、でも、例を言いますと、みなさん、今、心臓止まつていますか、多分動いていますね、意識しなくても動いていますね、神様から生かされていますね。今呼吸していない人いますか、意識しなくても呼吸していますね。神様から生かされていますか、支えてくださっていますか。

朝ごはん食べましたか、食べずに来た、慌てて食べられなかった朝ごはん、そこにはたくさん命が詰まっていたと思います。私も修道院で朝ごはんいただきました、色々な人を通して大自然を通して、命をご飯の時にいただいています。昨日の夜もご馳走いただきました。たくさん命をいただきました。わたしたちはいつも支えられて生かされて、そのことは、傲慢さから離られるかなと思えます。（資料読み上げ3頁）優しい



いイエス様。聖フランシスコに語りかけた十字架像のことば、「フランシスコ、行きなさい、わたしの家を修復しなさい。（あなたが）見ている通り、全て壊れかけています」言葉を思い巡らしてみましよう。最初に「フランシスコ」と呼びかけます。名前を言われたのです。イエス様は一人一人を本当に深くうけとめておられる。招いておられるということ。イエス様が求めたのは「行きなさい。」ということでした。自分のことだけを考えるのではなく神様の温かなこころを感じて小さな粋から出てくださいますとおっしゃった

のです。その頃、聖フランシスコはどうしたら良いかわからなかった。騎士になるのを諦めていた。帰ってきて、ハンセン病の人と深い交わりをしたけど、どうしたらよいかわからない、それでなんとなく教会に招かれた感じがして、お祈りしていました、その中で、自分自身と自分のことを考えないで、出かけていきなさいと言われるわけです。そして、「わたしの家」という言葉が出てきました。教会とは言わなかった、十字架、持つてきてくれた。この十字架。本物は2mくらいの高さがあります。この十字架が語りかけたと言われています。この十字架には色々な意味が込められていてとても興味深いです。ご受難の姿だけでなく、復活のイメージも重ねて描かれています。細かいところを見ると色々メッセージがあります。この十字架、「わたしの家」とついています。教会とは言わなかった。お家、住んでいるところ、私たちが小さき、弱さを抱え、イエス様の心に生かされていなくても。イエス様はわたしたちや家庭や教会共同体と共にいてください。当時の教会はたくさん問題を抱えていた、異端と呼ばれている人もいた、神父様のことを悪くいう人たちもたくさん

いた。神父様の中にも弱さを抱えている神父様もいた、でも、聖フランシスコが行った教会ではこういう声を聞いた。言いにくいですが、神父ですが、みなさんに支えられて、叙階して28年経ちます、こないだ、叙階記念日だったので、3月8日。忘れかけていました。思い出しました。申し訳ないが弱いわたしです、支えられています。弱さもあり、そこにイエス様がいらつしやるのです。神父様方も弱いところあります。それにかまけてはいけません。教会はエリートが集まるのではなく、みんないっしょに集まる。そして、「修復しなさい」とこのイエス様はおっしゃいました。改築とか建て直しではなく回復するよいうなイメージ。ハンセン病の人との交わりや、聖フランシスコが頭を下げて町を巡って、建材を集めた出来事もある。ここ数日、修復とはなんだろうと改めて思い巡らしていた、こういう出来事を踏まえると、みんなが小さき、弱さを抱えながらも、へりくだって教会に集まって、イエス様のあたたかな心に癒され、少しずつ生かされていくというのを、イエス様は求めていらつしやったのかなと思います。

聖フランシスコは裕福なお家で生まれたのですが、お金を使って教会の石を集めるわけにいかなかった。そんなことしたらお父さんに怒られる。こそこそ色んな人々のところへ行き、石が欲しいと助けてもらった。恥ずかしいことだけど、へりくだって、お願いした。教会に来てへりくだって支え合っていけばいいかなと思います。3つ目の歌を歌っていきましよう。『おお高く栄光に満ちる神よ』歌は大体祈りの言葉。聖フランシスコが祈っていた言葉とされています。自分がどうしたら良いかわからない中でお捧げしたお祈り、小さな教会のなかでお祈り、でも、大事な言葉は3段目の「完全な愛」そして、4段目の「あなたの聖なるまことの掟」という言葉。どちらもイエス様がわたしたちに優しく弱さも受け入れてくれ、優しい人、わたしたちもその優しさに応えたい、神様とみんなを大切にしたい。イエス様が愛してくださいましたように。それをください。この祈りの中で重要となっています。(資料4頁)「わたしについて来たい者」人のよくない思い、これから皆さんが集まって受難のなかですね、聖週間の受難の中に全部出てくる気持ちです。人々の気持ちです。

イエス様、それを全部受け止めてくれます。すごい方ですね、優しい方です。その上で暖かな心、癒しゆるしを整えようとしてくださる、ですから、聖霊の助けによって、私たちはありのままを神様にお委ねして、感謝と謙虚さのうちにイエス様の温かな心に少しづつ生かされることができたいです。十字架を見ると目がいたくなったりしますが、ここには優しさが詰まっています。聖フランシスコはハンセン病との人との出会いと、十字架のイエス様の姿と結びつけて考えています。弱さも全部受け止めて、温かな心をください。最後は4番目の歌を歌いたいと思います。『主イエス・キリスト』です。この歌は、皆さんミサの前に十字架の道行をなさっていました、その言葉にちよつと似ています。実は、聖フランシスコは典礼の言葉を利用してこの祈りを捧げたと言われています。この祈りは『遺言』に出て来ます。ハンセン病の人との交わりを書いた時、主はわたしに教会に対する信仰をくださいましたと述べこの祈りを書いた、最後にその祈りを歌いましょう。

ありがとうございます。



聖木曜日



枝の主日



聖土曜日



聖金曜日



復活の主日



ドニ―神父様とお別れの挨拶



第1回小教区宣教司牧評議会

3月29日

司祭団より

1. 今年度の司祭団は、主任司祭
ビジュ師、助任司祭ウイル師、
ニヤット師、共任司祭伴師の体制

ドニー神父様はご自分の希望で
復活祭後帰国されます。5日に復
活のお祝いとドニー神父様のお別
れ会を行います。新しいメンバー
も入ります、新しい体制でやっ
ていきます。

2. 復活徹夜祭及び復活祭の座席
指定を試したい。徹夜祭では中央
2列は灯すローソク、両側は電池
式のローソクの方が座ります。座
席に番号を貼っておき、来る順番
で指定席に座るようにする。教会
入り口受付でローソクの希望に
よってローソクとパンフと一緒に
番号を渡します。ヨセフ会は席の
案内を担当。座席表は教会で作
成、AからDブロック、前から10
列あります。300名座れます。

(例・A-1列目、)典礼聖歌が
ある所にすわっていたら、この
なかで自由に、詰めて座ってもら
う。丸椅子は出さない。新受洗者
は前から4列目に座ってもらいま
す。

3. 奉納の係を全ミサで朗読者・
進行係・その他1名とする。10時

ミサのヨセフ会ミサ案内係は、案
内に専念する。

4. 火曜日のミサを午後6時に変
更したい。火曜日の朝ミサを追
加したい。

報告・連絡事項

1. 今年度の評議員について

信徒代表、松浦さん。副代表、ヨ
セフ会会長成井さんとマリア会
長伊藤公子さん。

典礼委員会ウイル神父様、財務
委員長伊藤さん、広報委員会松田
さん、営繕委員会森さん、納骨堂
管理委員会水谷弘和さん、オルガ
ン管理委員会水谷雅子さん、社会
委員会神戸さん、バザー委員会松
田さん、ヨセフ会副会長はまだ決
定されていない。マリア会副会長
は水野さん。マリア会顧問、梅村
さん、書記は成井さん、戸野部さ
ん、典礼奉仕者の会伊澤さん、派
遣委員・社会委員 神戸さん(信
徒協顧問)と小浦さん(信徒使徒
職協議会)と井爪さん(信徒使徒
職協議会)、城東ブロック宣教司
職協議会、松田さんと川西さん、
牧評議会 松田さんと井爪
社会委員一粒会 松田さんと井爪
さん、福音館担当として 伊藤公
子さん、(派遣委員の役割教区に
限らずいろいろな情報収集)。大
樹の会は休会中、教会学校伊藤さ
ん、レジオ・マリエ工藤さん、青
年会松浦、中高生会コーラさん、

子ども部屋村井さん、萩原さん伊
藤さん。召命祈禱会二村さん。英
語ミサガニエさん、ベトナム語ミ
サ川原さん。要約筆記者の会、伊
澤さんと高橋さん、新たに召命祈
禱会から代表者に入っていただ
い。

4月5日9時30分ミサ後に簡単
な自己紹介を行う。

2. 四旬節黙想会について

谷崎新一郎師による講話は、四
曲の歌を歌いながら、非常に穏や
かな雰囲気で行われた。「ありの
まま」が大変印象的であった。有
意義なお話であった。140名程
参加があった。来年からどうする
か考えていきます

3. 4・5月予定確認

別紙のとおり。4月5日ご復
活・パーティー(ドニー師送別会を
兼ねる)、4月7日(22日主任司祭
不在、4月12日教会周辺清掃、5
月3日小教区宣教司牧評議会、5
月10日聖堂・聖堂横トイレ(典礼
委員会が指揮)・教会周辺清掃、
インターナショナルミサ。

4. 今年度行事予定表

今後、まとめていく。
信者全体集会は6月21日(日)10
時ミサ(又は9時30分)後に開催
予定。

5. 営繕委員会より

先日3月27日(木)司祭団と一
緒にひまわりの種を随所に植え
ました。聖堂玄関の横の芝生明に
ついては3月30日(月)お手伝いし
て頂き、植えます。

6. 社会委員会実施報告

2026年2月7日「2025
年度名古屋教区社会委員の集い」
(通常は12月)
社会福音化推進部・担当司祭豊
橋教会ジュード神父、委員2名+事
務局
1 正義と平和委員会、2 難民移
住移動者委員会、3 カリタス福祉
委員会

7. 片岡師能登への祈り参加案内

今年12月になるか来年2月に
なるか、集いがあります。司教様
もおみえで、来た人との分かちあ
りがあります。
4月1日14時 恵方町教会にて
講演と物品販売を行います。
当日は、布池教会カテドラルで
も聖香油ミサが10時30分から捧げ
られます。

8. その他

財務委員会から

宗教法人名義の口座が2つ、あとの5つは任意の口座で、金融機関からそれでは困るので、宗教法人の口座に集約してほしいと相談がありました。通常の口座と維持費の口座は確保できるので、納骨堂の口座、大規模の口座、司祭団の建設の口座、災害基金の口座、酒向基金の口座は集約する予定です。郵貯の方は変更ありません。

審議・相談事項

1. ご復活パーティーについて

「B B Qはヨセフ会の有志でお願いします」（予算2万5千円）、「サンドイッチとフルーツはマリア会の有志でお願いします」（予算2万5千円）、「おにぎりは教会学校で50個手配してください」（予算1万円）、「コーヒーストップは、いつもどおりに飲み物とケーキを提供してください」（予算2万円）、「これ以外に何か提供できる方は、事務にお申し出ください」

「飲み物は、信徒代表が準備します。（予算1万円）」

テーブルのところに椅子をおいでしまうと食べ物がとりづらいいのではないかと、バイキング形式にしたらよいのではとマリア会から意見が出されました。1階の集會室について、その配置はマリア会

でやりやすいようにやって頂きたいと思います。コーヒーストップも離れた所に椅子をおくようにします。

ヨセフ会は8時半に集合、中庭に椅子を何箇所におきます。天気がわるければ、通路のところでもります。基本的に外でやります。

2. 聖堂掃除について(信徒代表)

5月の第2日曜日から開始する。ヨセフ会の分担に聖堂を位置付ける。聖堂掃除の指揮は典礼委員会。

3. 教会美化について

5月31日(日)に行う。清掃区域の分担については、ヨセフ会にお願いする。

4. 信者全体集会について

6月21日(日)10時ミサか9時30分後に開催予定。大聖堂での開催。各会の今年度の方針をお話しただく。皆さんからご質問をうけて行く予定。資料はスマホ等でPDFを見ていただくこととなる。見られない方のために資料は少し必要になる。まとめ方は形式は後日連絡します(A4 Word) 2025年度の方にまとめていただく。

5. 聖書リレーについて)

5月からスタート。まずは評議員から。見える形でのバトンタッチ、信徒のみなさんが把握してい

ないので、評議員のみなさんから協力していただきたい、毎週3回は関わっていただきたい。来月評議員の方には用紙も配布します。モーセ5書から始めます。

6. バザーの準備について

松田さんが担当、昨年成井からバトンタッチします。4月26日初のバザー委員会開催予定。

7. 信徒の地区割について

試しに作って見た。個人情報なので、配布資料とはせず、回覧。

70名のグループ。郵便番号で、近い地区がまとめられているが、人数のばらつきがあるので2つのグループを合体するかも今後検討していく。個人情報があるので、年に1度か2度教会に集まり、親睦をふかめる、活動の内容確認、聖書のわかちあいを目的として行う。名簿は勝手に消せない、本人からの申し出がないとできない。

ヨセフ会等は男性信徒全員対象であるが、活動のときは実際に何かおこなうときに名簿は必要ではないかと意見が出された。敬老会ときは高齢の方には手紙を出している。半分は戻ってきている。3年戻ってきていると連絡不可の項目にチェックいれるようにしている、亡くなった方、引越された方、転出手続きが必要というところをご存じではない。

教会の案内をとおして、月報、一斉メール、教会のお知らせでおこなっていく。

教会はあなたの存在を忘れていないことを示していきたい。

誕生日のカードは皆に送りたい。

10時ミサの9時半への移行に

今、9時半に移行を考えています。駐車場の使い方についても検討する。具体的な審議は5月になります。

9. A J U にぎわいひろばの開催への参加について

5月31日に11時〜15時30分 A J Uにて開催します。

模擬店、バザー、軽食を開く予定。南山教会ではこの日は第5日曜日なので共同体合同ミサ(9時30分)となり、また、その後教会美化を行う予定。

準備が必要ならば、お手伝いします。(英語ミサ) 8班、おあげはできないが当日参加します。

当日は参加して現金で還元して楽しむ。B B Qは行わず、教会美化だけを行う。事前にA J Uのための募金を設けて集めて、それを持っていく形と決定した。

前日の手伝いは時間等を神戸さんから確認していただく。

10. その他

・復活徹夜祭・復活の主日の駐車

場について

駐車場の場所を知っている方は先に遠くに置いて下さい。教会のまわりはあとから来る人のためにあけておきたい。司祭団2台、砂利ひいてあるところ7台、ナザレ館の7台。アスファルトの上に停める。マンホールの上はダメ。

駐車場の場所をきめる(奉仕者にたいして)事前にプレートを配布される。

・財務委員長から各会精算は今年度中にお願ひします。

・教会学校からゆでたまごは200個作成します。100個たまご型のチョコプレート。

・普段のコーヒーションップでは倍価で販売されているが、利益は寄付をされている関係上、復活祭のお祝い時、教会の行事では原価でやる事が適切ではないかと信者のご意見があり、財務委員会から話があった。

各会報告

●典礼委員会

- 4月1日(水)聖香油ミサ 布池教会 10時30分
- 4月2日(木)主の晩さんのミサ 18時30分
- 4月3日(金)十字架の道行き 15時 主の受難の典礼 18時30分
- 4月4日(土)復活徹夜祭 18時30分
- 4月5日(日)復活の主日 9時30分

※4月3日(金)〜11日(土) 神のいつくしみの主日前の9日間のノヴェナ 毎日15時30分から
※4月25日(土) 教区典礼研修 布池教会 13時30分から

●広報委員会

聖ヨハネパウロ二世のこぼれ話を月報に連載、南山教会の出版にもご協力下さった西山達也神父様(コンベンツアル聖フランシスコ修道会)が受難の主日に亡くなれました。皆様、どうぞお祈り下さい。

次回 5月3日

社会委員会

川西通子

2026年3月6日(金)日本基督教団中央教会礼拝堂にて世界祈禱日が開催され、各教派から125名の参加者がありました。今年のテーマの「ナイジェリアの女性の現状」に深い洞察力を与えられました。アフリカ最大の経済を誇りながらも深刻な貧困とジェンダー不平等に苦しみ、そこに暮らすキリスト者の女性たちのことを覚え各教派の信徒と心を合わせ祈りました。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ11:28) 重荷を負ってくださる神を信頼する時、私たちはキリストにあって一つの体となり生きる希望を見出します。真の安息とは単な

芝生広場

る肉体的苦痛からの解放ではなく、神の恵みと地域社会の支援を通して与えられるものだ気づかされました。今、世界では戦禍の中で多くの(いのち)が呻き声をあげています。特に未来を生きる子どもたちが砲火に怯え、血を流しながら飢餓に苦しんでいます。世界祈禱日に参加してキリストのもとで全てを委ね、神の御心が世界中に広がり平和の器となるよう祈り続けていきたいと思ひました。(司祭団)



神のいつくしみの主日と全免償

聖ヨハネ・パウロ二世教皇は、2002年6月13日の教皇庁内赦院謁見の際に「神のいつくしみの主日」に免償を付与するための文章を許可されました。教皇庁内赦院は、教皇様の意向に従い、2002年8月3日に、その文章を発行し、この主日に全免償を受けることができると発表しています。

免償とは、既にゆるしの秘跡を受けて赦された罪に対する償いを免除する、というものです。

自分自身のための他に死者のため煉獄の霊魂のために、免償を受けることができます。

（『カトリック教会のカテキズム』1498参照）

免償には部分免償と全免償があります。免償を受けるためには、少なくとも教会が定めた三つの条件

1. ゆるしの秘跡に与る神のいつくしみの主日前後一週間程度（の間に）

2. 聖体拝領をする

3. 教皇様の意向のための祈りを唱える

を満たすことが必要です。

（いつくしみセンター資料参照）

月報編集部

信者の消息

帰天

神の栄光にあずかれますように

- クララ 小出 綾子 (80歳)
- テレジア 小澤 順子 (82歳)
- テレジア 一藤 眞名子 (85歳)
- 小さきテレジア 池田 雅子 (92歳)



もしもの時は・・・

ご家族のもしもの時は、
事務所営業時間内の場合：事務所へ
時間外の場合：①特定の葬儀屋さんをご希望の方はそちらへ。
②南山教会でのご案内希望の方は
ディーズ 052-702-0040

維持費納入について

維持費の袋は教会事務所にて保管しております。事務所にて直接ご納入下さるか、以下の口座にお振込み頂くこともできます。よろしければご利用下さい。

- 三菱UFJ銀行八事支店 普通預金 1737813
- カトリック南山教会 維持費口
- 郵便口座 00880-8-70893
- カトリック南山教会

財務委員長 伊藤恭輔

ミサ意向について

今まで通常ミサ意向は各ミサ1件でしたが、4月より何件でもお受けします。また、本来、主日のミサは共同体のための意向で捧げられますが、主日しかいらっしやれない信徒やご家族のために、主日のミサもお受けしています

2026年3 - 4月行事予定表

	教会典礼暦	南山教会行事	各会活動	教区行事・その他
4月	5(日) 復活の主日 12(日) 神のいつくしみの主日		10(金) マリア会例会 12(日) 教会学校、中高生会 始業式 19(日) ヨセフ会班長会 25(土) 子ども部屋 要約筆記付きミサ 典礼委員会	14(火) 樹の会 18(土) レジオマリエ名古屋ｸﾘｱ 25(日) 召命祈願日 27(月) 殉教者祭(金沢卯辰山)
5月	聖母の月	年間予定表作成中		